

# 動物救急病院の主な特徴と機器 ①



緊急性の高い症状の動物たちの治療を提供します



心臓、腹部臓器を見るのに優れた機器。



必要に応じて救急搬送車で中野から練馬に搬送し  
そのまま24時間管理の入院治療を行うことが可能です。



生化学の即時検査が可能。



24時間管理の入院治療を行うことが可能。



24時間の麻酔コントロール可能な高性能の麻酔器がER室と手術室とMRI室に配備してあります。  
空気との混合ガスで酸素中毒を防げる人工呼吸管理装置です。



集中治療室です。



異物の誤飲の時など、開腹手術をせずに処置をすることが可能です。

## 動物救急病院の主な特徴と機器 ②



検査中、待合室から検査を見る事が出来ます。  
※動物救急病院練馬のみ



血球計数の即時検査が可能。



開腹手術などで使用する電気メス。  
※動物救急病院練馬のみ



動物専用の機器なのでコンパクトですが、十分に精度の高い撮影が可能です。



緊急手術時：脳脊髄外科・整形外科・  
血管造影に極めて有効。  
※動物救急病院練馬のみ

## 症例紹介

### 脳外科・神経外科 緊急外科症例

- ・環椎軸椎不安定・亜脱臼症例
- ・脳腫瘍・脳ヘルニアによる脳幹部症状症例
- ・脳救急外科症例
- ・脳救急外科症例
- ・整形外科症例
- ・開胸手術症例
- ・椎間板ヘルニア症例
- ・腹部緊急手術症例
- ・大動脈血栓症の緊急手術
- ・鼠径ヘルニア:カントン化し壊死した症例
- ・尿路救急外科症例

### 内科症例

- ・腹膜透析症例
- ・DIC/SIRS/敗血症治療
- ・肝臓リンパ腫治療例
- ・心タンポナーゼによる急性循環ショック

# 学会 / 学術セミナー発表

## 学会発表

2012年	「獣医神経病学会」犬の舌咽神経鞘腫の1例
2012年	首都大学東京大学院 学術論文 顆粒球コロニー刺激因子(G-GSF)の神経保護効果 医学・再生医療領域において、細胞誘導効果と中枢神経保護効果が注目されている G-GSFを犬の脊髄炎治療及びテンカンマウス(ELマウス)に使用しその効果についての研究 URL: <a href="http://jairo.nii.ac.jp/0178/00002376">http://jairo.nii.ac.jp/0178/00002376</a>
2011年	獣医麻酔外科学会 血液浄化療法 腹腔内出血による出血性ショックに対し実施した自己回収血輸血の有効性
2011年	獣医神経病学会 顆粒球コロニー刺激因子(G-GSF)による犬の脊髄保護療法
2010年	内科学アカデミー 神経機能の回復を妨げる脊髄損傷をMRIを用いて評価する必要性
2008年	首都大学東京大学院 犬の椎間板ヘルニアと神経幹細胞移植
2008年	獣医神経病研究会 プロテアーゼインヒビターの使用により脊髄軟化症の進行がみられなかった3症例

## 学術セミナー発表

2011年	積極的治療により良好なQOLを獲得した椎体骨肉腫椎体固定・化学療法により1年以上歩行可能となり生存
2011年	外傷性の椎体骨折への緊急手術例 受傷後数時間で椎体固定術を実施し歩行機能を回復した症例
2011年	急性腎不全への血液透析症例 SIRS・ユリ中毒・溶血性貧血後ARF
2009年	積極的治療により良好なQOLを200日獲得した頸髄組織球性肉腫の1例 環椎軸椎垂脱臼症 脊髄損傷をMRIを用いて評価する
2009年	脳圧が高い どのように観察しどのように治療するか
2008年	パグ脳炎の治療の可能性 脳内SIRSとして考える